

クラス	TU308	担当教員	工藤英美
テーマ	子どもの発達を保障する「インクルーシブ保育」の研究		
著書・論文	【論文】保育者のインクルーシブ保育に対する認識保育者の意識調査の傾向より 愛知県立大学生涯発達研究所 生涯発達研究 10,95-100 頁 (共著) .2018.		
研究課題等	幼児における多義図形認知の発達:図形の解体と再構成の経験が自発的反転に与える効果 発達心理学研究 28(2),74-83 頁 (単著) .2017.		
	幼児はなぜ 1つの現実には 2つの表象があり得るという理解が困難か-多義図形認知の発達研究- 愛知県立大学大学院人間発達学研究所 人間発達学研究 7,79-87 頁 (単著) .2016.		
	【研究課題】 幼児期の表象発達、インクルーシブ保育		
ゼミナール概要			
キーワード：乳幼児の発達、発達保障、インクルーシブ保育、障害児保育			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>目的： 本ゼミでは、子どもの発達について深く理解し、<u>全ての子どもの発達が保障される保育実践方法</u>について研究していくことが目的です。また、卒業論文を書き上げる上で必要なスキル（学術論文を読む、ディスカッションやプレゼン、論文を書くなど）の習得と向上を目的とします。 そのために、以下の学習目標を掲げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①乳幼児期の発達や、発達と発達つながりとその過程、問題を抱えている子どもの発達について理解を深める。 ②様々な保育実践方法に関する知識を身につける。 ③学術論文を読めるようになる。 ④自分の疑問、興味、関心を整理し、卒業論文執筆のための研究計画を立案できる。 			
<p>内容： 子どもの発達を理解し、一人ひとりの発達を保障するための保育実践とは具体的にどのような実践でしょうか。また、子どもの発達を保障する保育実践とは、どのように展開されるのでしょうか。本ゼミでは、自明とされていることを改めて問い直し、「子どもの発達を保障するインクルーシブ保育」の具体化について考えていきたいと思ひます。そのために、実際に行われている保育実践や活動などに関わりながら子どもの発達を保障する保育方法について検討していきたいと思ひます。</p>			
<p>授業計画等： <u>3年次は、</u>子どもの発達に関する先行研究、保育実践研究だけでなく、「子ども」がかかわる幅広いテーマの文献を講読し、自分の興味、関心がどこにあるのかを知り、卒業研究につながるような「問い」を設定していきます。また、文献講読を通して、論文の読み方やまとめ方、また、プレゼンやディスカッション等の卒業研究に必要なスキルを身につけます。そのほかに、現場の保育者の話を聞いたり、保育現場等に参加したりすることを通して、卒業論文のテーマを絞っていきます。 <u>4年次では、</u>各自のテーマに沿って卒業研究を進め、卒業論文を完成させます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>子どもの「発達」に興味、関心がある人、子どもの行動を不思議だと思ひ人、特に歓迎します。</p> <p>ゼミでは教員からの教授ではなく、自分で「問い」を見つけ、調べ、探究していきましょう。そして、自分の考えをゼミの仲間へ聞いてもらい、また、仲間の発表も聞き、意見交換をしましょう。卒論を完成させるためには、共に学ぶ仲間の存在は大切だと思ひます。ゼミの仲間がそんな仲間になれるといいと思ひます。</p> <p>ゼミの活動内容などは一緒に相談して決めていきましょう。</p>			